

課題番号16

# 需要に応じた野菜生産・出荷体制の確立

～JAながぬま白菜部会 JGAP個別認証取得のあゆみ～

対象：JAながぬま白菜生産部会 29戸

## 1 活動の背景

長沼町の白菜は、令和5年度の作付面積28ha、販売額9,891万円で、地域の農業を支える重要な振興作物である。主にコンビニで取り扱いのあるキムチ用として白菜を原料出荷している。コンビニからGAP認証を取得した白菜の出荷の要請があり、4～5年後の団体認証取得に向け、まずは個別認証の取得を目指すことになった。

## 2 活動の経過

目標事項：農業生産工程管理改善戸数の増加

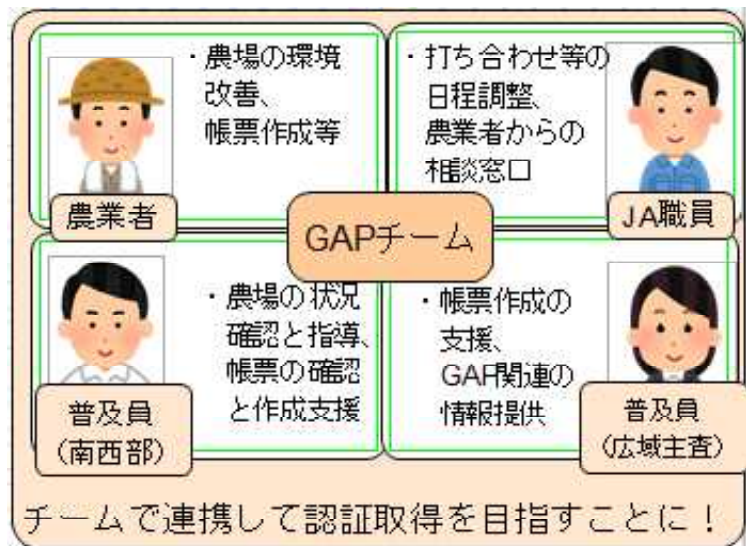
現状：0戸→目標：1戸

### (1) 認証取得に向けた打ち合わせ (4/17、5/10)

農業者、JA、普及センターの担当者で集まり、今後のスケジュール等について話し合った。R5年度は、部会のGAPモデル農場として2戸の個別認証取得を目指すことになった。

**農業者**  
JGAP個別認証をとりたいけど、何から始めたら良いかわからない。

**普及員**  
まずは農場を見て、改善点の認識を共有しましょう。



### (2) JGAP認証に向けた農場の管理状況確認・改善指導 (5/16、5/26)

農業者2戸の農場を巡回し、JA、普及センターの担当者が管理点と適合基準に照らし合わせながら、農業者への改善提案を行った。



**指導内容の一例**

今ある農薬保管庫では農薬が入りきらない。

↓

この農場では、施設できるスーパーハウスを用意することになった。

### (3) 帳票作成のアドバイスと内容確認 (6/6、6/22、8/2)

農業者、JA、普及センターの担当者が集まり、帳票を確認しながら修正作業を行った。



#### 帳票の例

#### 管理点1.2 地図の整備



農場や周辺状況を把握できる地図を作成し、農場で考えられるリスクを記入した。

### (4) 本審査に向けた自己点検 (11/6、11/9)

農業者の農場でJGAP指導員資格を持った普及員が立ち会い、すべての管理点について自己点検を行った。

不適合だった項目は、改善して記録した。

ノートPCで帳票を見ながら、帳票に不備がないかや農場の管理に問題がないかGAPチームみんなで確認しました。



11/14、11/15 本審査

## 3 成果の具体的内容

支援の結果、12/19に生産者2戸ともにJGAP認証を取得した。

目標事項：農業生産工程管理改善戸数の増加 **到達度200%**

農業者の声



GAPに取り組んだことで、農業や機械等の出し入れがしやすくなった。食品を生産していることを改めて認識した。今後もGAPを続けていきたい。

JA職員の声



最初はJGAP認証がとれるか不安だったが、普及センターと連携して認証取得でき、感謝している。引き続き、団体認証取得に向けて協力してほしい。

## 4 今後の課題と対応

- ・ 個別認証を取得した2戸の農業者の生産管理や、販売先等の変化について白菜部会内で共有し、JGAP認証取得の効果を確認する。
- ・ 団体認証取得に向け、団体事務局の体制整備や、集荷場の受け入れ体制の改善について引き続き情報提供や指導を行う。